

支部だより

2016.11.30 No.14 東京支部事務局

JNP 東京支部

第 13 回作品展終了しました

皆様方の絶大なるご協力ありがとうございました。お陰さまで無事作品展を終了することができました。連日 70 人から 100 人近くの方々にご来場いただき、おおむね好評でした。会員皆様にお礼申し上げます。

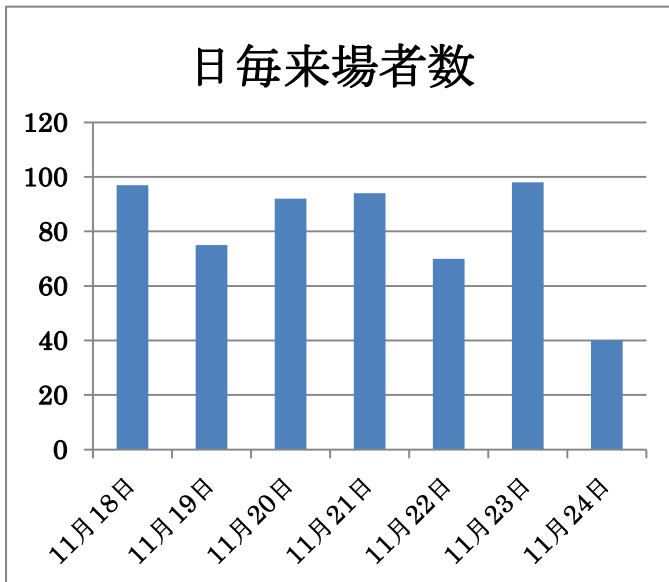
(作品展担当役員井上武夫氏『出展者各位』宛てメール文章より引用)

すように、しみじみと話して下さいました。

ご来場下さる方にはご自分の昔のこと、昨日のこと、それぞれの想いが押し寄せておられるのだなあ・・・と感じました。(Y)



作品展会場風景



作品への『出会い』—そして苦勞—

早川 栄子

私の作品(第 13 回作品展出展『朝陽に輝く』)は昨年 10 月通称『梅池』で撮影した写真です。

東京から夜行バスで松本駅まで行き、駅で仮眠しながらバスを待ちました。やっとバスが来て梅池でゴンドラを降りた時はへとへとでした。自然園に着いてからお昼頃まで、ヒュッテ付近を撮りながら歩き廻りました。さすがに疲れが出て、午後からはヒュッテでゆっくり休むことにしました。

次の日は 4 時出発。満点の星空を眺めながら歩き始めて 30 分位して、木道の脇にある木の幹にクマが傷を付けたと思われる 3 本爪の痕が多数あるのを見つけ「真っ暗な狭い木道で遭遇したら・・・」と思ったら急に怖くなり、少し前を歩く友達の方へと急ぎました。

6 時には前方が明るくなり、急いでカメラをセッティングし、モルゲンロートの白馬三山を無我夢中で撮り続けました。

(この原稿は事務局から依頼して書いて頂きました)

次回 『定例研究会』は 12 月 17 日(土) 13:50～
講師: JNP 本部指導会員(前会長) 山本 一 氏
皆様のご出席をお待ちしております。

当番日のこと

私は 21 日の当番でした。10 時半頃、杖に頼りながらご来場された方がいらっしゃいました。お歳を尋ねると 93 歳とのことでした。「私も、つい最近まではカメラを担いで歩きまわっていました」とのこと。会場の中ほどにある椅子に座って全体を眺めた後、「光と戯れている作品に魅かれるね」と話されていました。「シャッターを押すまでには苦勞が多いからこれらの作品は苦勞の結晶だろうね」「歩かなければ(撮りたい)相手に会えない。行っても会えないことがある」とご自分の過ぎた日を思いだ